

経営学研究科

【2024年度大学評価総評】

経営学研究科では、修士（夜間）コースの再編、修士（昼間）コースの授業内容充実を中心とした教育課程の改革を進めつつ、志願者確保に向けて、ホームページや SNS での情報発信強化等の広報活動にとどまらず、コース代表者会議を設置して実質的な対策を講じるなど、不断の検討と議論を重ねている点がおおいに評価できる。

夜間コース・昼間コースの教員配置や収容定員見直しの検討を行うとともに、夜間コースにおいて培ってきた指導体制や指導方法を昼間コースと共有する際にも、活発な教員相互の意見交換やコース毎の現状の課題を共有することが推進されることに期待したい。

博士後期課程の在学学生も対象に含め、研究倫理講習や図書館との連携による文献検索講習会を実施するなど、院生に対する研究指導を組織的に行っている点も高く評価できる。同時に、既に導入されているメンター制度および留学生向けのチューター制度の維持及び院生に向けた周知の拡充など、制度の有効活用に向けた取り組みにも期待したい。

大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024年度自己点検・評価シートに記載された
I 現状分析を確認

すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。

【2024年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①研究科（専攻）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②研究科（専攻）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学大学院学則 別表V ・大学院入学案内 ・研究科独自パンフレット ・研究科オリエンテーション配布資料 ・履修案内 ・法政大学大学院ウェブサイト (URL: https://www.hosei.ac.jp/gs/keiei/) ・研究科独自ウェブサイト (URL: https://hbs.ws.hosei.ac.jp/major/rinen.html) 	

基準2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①研究科において、研究科長及び教授会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②研究科において質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学大学院経営学研究科教授会規定 ・経営学研究科教授会資料 	

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・大学院入学案内 ・研究科オリエンテーション配布資料 ・履修案内 ・法政大学大学院ウェブサイト（URL: https://www.hosei.ac.jp/gs/keiei/） ・研究科独自ウェブサイト（URL: https://hbs.ws.hosei.ac.jp/major/rinen.html） 	

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学大学院学則」第15条（「単位」）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・大学院入学案内 ・研究科独自パンフレット ・研究科オリエンテーション配布資料 ・履修案内 ・シラバス ・シラバス作成ガイドライン ・法政大学大学院ウェブサイト（URL: https://www.hosei.ac.jp/gs/keiei/） ・研究科独自ウェブサイト（URL: https://hbs.ws.hosei.ac.jp/major/program.html） 	

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態に即して、1 授業当たりの学生数が配慮されています	はい

か。	
4.3③ ICTを利用した遠隔授業は「2023 年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑤シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑥授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	はい
4.3⑦研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい
4.3⑧研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・履修案内 ・研究科オリエンテーション配布資料 ・シラバス ・シラバス作成ガイドライン ・経営学研究科教授会資料 ・授業改善アンケートの実施 ・法政大学大学院経営学研究科研究指導計画(修士課程・昼間) ・法政大学大学院経営学研究科研究指導計画(修士課程・夜間) ・『法政大学経営学研究科経営学専攻博士後期課程学生のための手引き』（制定 2011 年 9 月 16 日、一部改正 2017 年 4 月 3 日） ・法政大学大学院ウェブサイト（URL: https://www.hosei.ac.jp/gs/keiei/） 	

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学大学院学則」第 20 条の 2（入学前既修得単位の認定）に基づき既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学大学院学則」第 22 条（修了要件）、第 26 条（修了要件）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位論文審査基準を定め、文章等によって予め学生に明示し公表していますか。	はい
4.4⑥学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑦ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション配布資料 ・履修案内 ・経営学研究科教授会資料 ・シラバス ・成績評価のガイドライン ・「法政大学大学院経営学研究科経営学専攻における学位論文の審査基準（URL: keiei_shinsaki_jyun.pdf (hosei.ac.jp)） ・経営学研究科修士論文およびリサーチペーパー執筆の手引き（URL: https://www.hosei.ac.jp/application/files/9917/1037/9847/14_2024-keiei.pdf） ・『法政大学経営学研究科経営学専攻博士後期課程学生のための手引き』（制定 2011 年 9 月 16 日、一部改正 2017 年 4 月 3 日）における付属資料 1『経営学専攻における博士課程指導のガイドライン』（2008 年 3 月 18 日、2020 年 7 月 17 日一部改正） ・同上、付属資料 2『経営学研究科における博士の学位申請及び審査に関する申し合わせ』（2005 年 4 	

月経営学専攻教授会制定承認、2016年4月経営学研究科教授会改正承認)
 ・法政大学大学院ウェブサイト (URL: <https://www.hosei.ac.jp/gs/keiei/>)

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5②修了生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
【具体的な活用事例】	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケートに研究科独自の質問を追加した (2024年度第1回経営学研究科教授会議事録) ・授業改善アンケートの結果を教授会で共有した (2024年度第2回経営学研究科教授会議事録) ・修了生アンケートの結果を教授会で共有した (2023年度第5回経営学研究科教授会議事録) (アンケート以外での学習成果の把握) ・執行部と学生代表による懇談会を開催し結果を教授会で共有した (2023年度第11回経営学研究科教授会議事録) 	

基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①修士課程・博士課程ごとに、アドミッション・ポリシー (学生の受け入れ方針) を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学大学院入学案内 ・法政大学大学院入試要項 ・経営学研究科教授会資料 ・研究科独自パンフレット ・法政大学大学院ウェブサイト (URL: https://www.hosei.ac.jp/gs/keiei/) ・研究科独自ウェブサイト (URL: https://hbs.ws.hosei.ac.jp/major/program.html) 	

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】研究科・専攻における収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学大学院入学案内 ・法政大学大学院入試要項 ・経営学研究科教授会資料 	

表1

研究科・専攻における収容定員充足率	修士課程	0.50以上 2.00未満
	博士課程	0.33以上 2.00未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①研究科の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「法政大学大学院経営学研究科経営学専攻担当教員に関する規定」（2012年月専攻教授会承認） ・経営学研究科教授会資料 ・各教員の授業担当状況に関わる資料（「科目担当表」「時間割」「指導担当」） 	

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「法政大学大学院経営学研究科教授会規定」 ・「法政大学大学院経営学研究科経営学専攻担当教員に関する規定」（2012年2月専攻教授会承認） ・「法政大学経営学部における教員の資格に関する規定」（2012年3月専攻教授会承認） ・「法政大学経営学部における専任教員採用の手続きに関する申し合わせ」（2012年3月専攻教授会承認） ・「法政大学経営学部における任期付教員の任用に関する内規」（2012年3月先行教授会承認） ・経営学部教授会採用・昇進関係資料 	

基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
7.1④ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション配布資料 ・履修案内 ・経営学研究科教授会資料 	

基準8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
--	----

【根拠資料】
<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション資料 ・経営学研究科教授会資料

基準 9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学学術データベースの社会貢献活動欄 ・教員の社会貢献・社会連携活動に関するアンケートを実施 ・上記アンケート結果を研究科独自ウェブサイトに掲載 ・シンポジウム、セミナーの開催案内を独自ウェブサイトに掲載 	

基準 10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2023年度大学評価結果総評】（参考）
<p>経営学研究科では、昼間と夜間の2つの課程から構成される修士課程と、博士後期課程が設定され、多様なバックグラウンドを持つ在籍者の特性に応じた幅広いカリキュラムが提供されている。</p> <p>昼間・夜間の修士課程そして博士後期課程のいずれにおいてもコースワークを体系的に設置し、リサーチワークとのバランスを取りながら、学生による専門知識獲得と研究活動を組織的に支援しており、高く評価できる。とりわけ、博士コースワークショップにおける三段階のステップ制の導入は、指導教員と一対一の指導体制で行う見通しの立てにくい作業となりがちな博士論文執筆のプロセスに対して、よりオープンかつ段階的な要素を取り入れた優れた取り組みと言える。</p> <p>個々のコースへの入学者数のアンバランスを解消すべく、コースの統廃合など大掛かりな再編が実行されていることは評価できる。その再編がどのような効果や影響をもたらしているか、継続的に検証が行われることが期待される。</p> <p>その他学修の質の向上を目指したさまざまなシステムの導入が意欲的に進められており、大変評価できる。</p> <p>学生に対するきめ細かな支援を行うために、メンター制度や留学生向けのチューター制度が整備されており、ある程度定着しているようである。必要な学生に支援がしっかり行き届くよう、さらなる取り組みに期待したい。また、研究者を志向する日本人学生や法政大学内部からの進学者の少なさについても、改善の余地があるかどうか、検討を続けることが望まれる。</p>
【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】
引き続き修士課程、博士課程共に、多様なバックグラウンドを有する在籍者の学修ニーズに配慮し、充実したコースワークとリサーチワークの機会を提供していく。

夜間修士課程では統廃合が進み、2024年度入学者より企業家養成、人材・組織マネジメント、マーケティングの3コース体制となった。国際経営、アカウントティング・ファイナンスの2コース募集停止の影響は否めないが、残存する3コースにおいても志願者・入学者数が昨年度は一昨年度に比べ大幅に減少した。本年度は志願者増に向け早急な対応が必要と認識している。そこで、当研究科の特色や魅力を的確に且つ広く潜在志願者に届けるべく、これまでの広報の見直しを行っている。手始めとして研究科オリエンテーション時に、新入生がどのように当研究科の情報を入手し、どのような理由で当研究科を志願したのかを尋ねるアンケートを実施した。このアンケート結果を踏まえ、研究科独自のパンフレットをリニューアル中で、配布経路の見直しもを行っている。研究科独自ウェブサイトでも当研究科の魅力を的確に伝えるべく4月から積極的にニュース配信を行っている。

昼間修士課程は例年ほぼ留学生で占められるが、今年は日本人4名が志願し内2名が入学した。昼間修士課程については昨年度9つの領域を設け、担当可能な教員を配置し、入学願書においても志願者に領域選択を課したが、その結果、志願者の選択領域が夜間3コース関連領域に集中し、教員負担にも偏りが生じている。本年度は、夜間コースで培ったノウハウを昼間コースと共有し、夜間から昼間に配置換えした教員の有効な人材活用や、リサーチペーパーや修士論文の指導方法について議論を進めていく。昼間コースの運営体制、指導方法について一定の方向性を示すことで、教育内容の拡充をはかっていく。学生支援策としてのメンター制度、チューター制度についても入学時からの有効活用を進めていく。

2 各基準の改善・向上

基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5③学習成果を測定するために設定した指標は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5④学習成果を測定するために設定した指標に基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S (さらに改善した又は新たに取組んだ)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
本年度から開始した昼間修士課程のリサーチペーパーの内容や指導方法について、コース代表者会議で議論を進めている。昼間コース内ではコース代表教員と所属院生との懇談会を開催し、現状の課題把握に努めている。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を	B (更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とす

方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	困難とする要因がある。	る要因がある)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6①に示した通り、昼間修士課程のResearch Paperは本年度開始したばかりで、指導体制や方法についての確認・検討が現在進行中である。本年度（初年度）の経験を踏まえつつ、昼間コース所属院生の学修ニーズに配慮した効果的な指導方法について議論を深め、来年度以降に向け一定の方向性を示していきたい。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに取組んだ）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
昼間コースの運営体制、指導方法の方向性を定めるべく、コース代表者会議を通じて夜間コースの経験の共有をはかっている。昼間コース内でも、コース代表教員が所属院生との懇談会を開催するなど現状把握に努め、課題発見につなげている。		

基準5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに取組んだ）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
昨年度入試では、夜間2コース募集停止の影響は否めないが、残存する3コースにおいても志願者が減少するなど、志願者増が喫緊の課題となっている。志願者の情報入手経路や現存の情報提供媒体の有効性を把握すべく、本年度新入生を対象にアンケート調査を実施した。研究科独自のウェブサイトやパンフレットが有効だとした者が多いにもかかわらず、入学前にこれら媒体から情報を入手した者は3割程度であることが判明した。独自ウェブサイトやパンフレットを通じて当研究科の特色や魅力を潜在志願者に的確に届ける方法の検討が必要である。		
5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに取組んだ）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
研究科の特色や魅力を潜在志願者に広く的確に伝えるため、研究科独自のパンフレットのデザインを刷新した上で、掲載情報の内容と配布経路の見直しを行っている。また、独自ウェブサイトでは4月から積極的に研究科関連のニュースを配信している。更に、コース代表者会議では、志願者増につながるようなMBAセミナーの企画、開催方法などの検討を進めている。		

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①研究科内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげ	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない	S（さらに改善した又は新たに取組んだ）
--	---	---------------------

る組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	組んだ)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
コース代表者会議を通じて、これまで必ずしもコース間で共有されてこなかった各コースでの修士論文（演習）の指導方法や集団指導体制の実態について情報を共有し、昼間修士課程の方向性を定める上での活用を進めている。		
6.3②研究科内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに組み込んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

III 2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	修士（夜間）のコース制の再編に関する議論を重ねると共に、修士（昼間）コースの授業内容を充実させる。博士後期課程では国内だけではなく、海外への情報発信のためのサポートを行う。	
年度目標	アカウンティング・ファイナンスコースの円満な統廃合を進める。コースの在学生に対する教育水準を維持するとともに、コース廃止後の教員配置とアカウンティング・ファイナンス関連科目の編成方針について議論を開始する。	
達成指標	コース代表者会議および研究科教授会において、アカウンティング・ファイナンスコース統廃合関連の対応策を検討する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	アカウンティング・ファイナンスコースの統廃合を円滑に進めるとともに、夜間コース共通科目および昼間コースの教育を充実させる目的で、コース代表者会議および大学院教授会において議論を重ね、授業編成を行った。
	改善策	旧国際経営コースと募集停止となったアカウンティング・ファイナンスコースに所属する教員の教育リソースを、存続する夜間各コースおよび昼間コースの強化に活用する方策をさらに検討し、実施していく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	旧国際経営コースやアカウンティング・ファイナンスコースの教員の昼間コースへの移行また夜間や昼間コースでの授業編成などの検討がコース代表者会議や大学院教授会において重ねられた点は評価できる。
改善のための提言	国際経営、会計、ファイナンスなどの科目に対する学生のニーズの調査を行うことで、今後の夜間および昼間の大学院の授業編成に活かせる可能性がある。昼課程を受験する留学生の中には、自分の専攻しようとする分野を正しく認識していない学生が見られるので、そうした学生に対する指導などによって組織・人材とマーケティングに集中する学生を分散させる必要がある。	
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	修士（夜間）のコース制の再編に関する議論を重ねると共に、修士（昼間）コースの授業内容を充実させる。博士後期課程では国内だけではなく、海外への情報発信のためのサポートを行う。	
年度目標	企業家養成コースの志願者数減についてその対策を検討する。 昼間コースの運営体制を強化し、カリキュラムの改善について議論を開始する	
達成指標	企業家養成コースの志願者数増を目指す方策を検討する。 昼間コース代表者を設置し、コース代表者会議に参加させる。コース代表者会議で昼	

	間コースの一層拡充に向けて議論を深める。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	昼間コースの代表者を新たに設置し、昼間コースの拡充に向けた具体的な措置をコース代表者会議などで検討した。9つの専門領域における教員の配置を明確にすることで、学生の受入能力の拡大と研究指導力の強化を目指している。夜間の企業家養成コースでは、ホームページを活用した情報発信の強化など広報活動を行った結果、昨年度に比べて志願者数が50%ほど増加した。
	改善策	昼間コースのさらなる充実を目指す改革を推進し、とくに、受入実績がまだない専門領域への志願者の関心を高めるための取り組みを継続的に行っていききたい。また、夜間のマーケティング・コースでの志願者減少をもたらす原因を究明し、対策を検討していききたい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	昼間コースの代表者を新たに選出し、具体的な検討に結びつけることができた点は評価できる。また、夜間の企業家養成コースの募集者像が見られたことは広報活動の成果として評価できる。一方で、受け入れ実績がない専門領域への志願者を増やす方策にどのようなものがあるかの検討の余地がある。
	改善のための提言	近年、募集者の減少が見られるマーケティング・コースの減少の原因を検討するとともに、企業家養成コースの志願者像の取り組みがどの程度有用であるかを検討する余地がある。また、ホームページを使った広報活動にはまだ充実させる余地があると考えられる。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	修士（夜間）のコース制の再編に関する議論を重ねると共に、修士（昼間）コースの授業内容を充実させる。博士後期課程では国内だけではなく、海外への情報発信のためのサポートを行う。	
年度目標	修士課程および博士後期課程の学生に対して、研究手法習得を支援する活動を行う。	
達成指標	経営学研究科の学生のニーズを踏まえて、適切な研究手法や研究ツールを教授するセミナーを複数回開催する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	図書館と連携して、研究科所属の院生全員を対象に、データベースを用いた文献検索方法と文献管理ソフトウェア（RefWorks）の使用法を教授する講習会を開催した。修士学生の参加率は昼間コースが約9割、夜間コースが約8割と高かった。この講習会は院生から高い評価を受けた。また、昨年度の優秀な修士論文の講演会も実施した。修士1年生（まだゼミに所属していない）を対象に、研究テーマの見つけ方や研究計画書の作成方法などに関する非公式の指導も執行部によって行われた。
	改善策	文献検索の講習会への博士後期課程の学生の参加率は約3割と低かった。今後とも院生を対象に、文献検索や文献管理の方法、様々な基礎的研究手法に関する講習会を継続する一方、博士後期課程の学生のニーズを踏まえて内容を改善すると同時に、積極的な参加を促す。また、修士1年生向けの学術研究に関する啓蒙活動を行うための体制を検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	図書館と連携した研究手法の獲得のためのセミナーの実施、また研究テーマの見つけ方や研究計画書の作成方法などについての非公式的な指導は非常に有効な取り組みであると思われる。
	改善のための提言	研究手法などについてのセミナーや非公式的な指導を受けた学生の感想に基づき、セミナーの内容などの改善が行われる余地がある。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	昼間修士、夜間社会人、博士後期課程（一般・社会人）のそれぞれのニーズに合致したより体系立った論文指導を行う体制を構築する。また、研究倫理に関する指導をさらに強化する。	

年度目標	優秀な修士論文および博士論文の指導に向けてその教育方法についての議論を行う。また、修士・昼間コースのリーサーチペーパーについての適切な指導方法と指導体制について議論を開始する。	
達成指標	教員間で修士論文および博士論文の指導方法について情報共有を行う場を設定し、切磋琢磨を行う。コース代表者会議および研究科教授会で来年度から始まるリーサーチペーパーの指導方法と指導体制を検討する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	FD 懇談会（1月 22 日）では、来年度からのリーサーチペーパーの運用開始に備えるべく、リーサーチペーパーの指導方法や要求基準などを巡って、教員間で踏み込んだ意見交換を行う。また、博士ワークショップ、コース別の修論プロポーザル報告会、修論中間報告会を開催し、教員間・院生間の研究方法などに関する情報共有と相互刺激を促進した。
	改善策	社会人院生が情報共有の場に参加しやすくなるよう、開催時期や方式などについてさらなる工夫を行いたい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	来年度に迫ったリーサーチペーパーの指導方法や要求水準などに関する教員間の意見のすり合わせができたことは評価できる
	改善のための提言	教員の側の認識の共有と同時に、学生の側への具体的な要求水準の伝達なども重要であると考え。リーサーチペーパーの要求水準に関しては、今後数年をかけて、中間報告会の実施や成果の内部回覧などの方法によって確定させていくことが必要と考える。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	昼間修士、夜間社会人、博士後期課程（一般・社会人）のそれぞれのニーズに合致したより体系立った論文指導を行う体制を構築する。また、研究倫理に関する指導をさらに強化する。	
年度目標	研究倫理に関する教育体制の定着・強化を進め、一人一人の研究倫理についての意識を向上させる。	
達成指標	新入生全員の研究倫理に関する e ラーニングコースの受講を徹底させる（受講率 100% 維持）。論文指導過程（ゼミなど）に研究倫理の教育を盛り込み、意識のさらなる強化を図る。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	新入生による研究倫理に関する e-Learning は 100% 受講されている。また、文献検索の講習会と博士ワークショップの開催に合わせ、それぞれ修士と博士後期課程の学生を対象に、執行部が研究倫理教育に関するレクチャーを実施した。さらに、論文指導過程（ゼミなど）で研究倫理の教育を取り入れるよう、指導担当の教員に要請している。
	改善策	今後とも院生に対する研究倫理教育を継続し、倫理意識の向上を図りたい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	継続的に研究倫理教育が全ての大学院生を対象に実施された点は非常に評価できる。
	改善のための提言	研究倫理教育については継続的に粘り強く行うことが必要である。今後とも効果的に同様の活動を継続できるする上でも参加者のアンケートなどの事後的なフォローが必要であると考え。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	修士論文および博士論文の質の向上を目指し学位授与率を向上させるとともに、授業担当者による一層の授業内容の向上に努める。	
年度目標	授業および論文指導に関する学生の満足度を向上させる。	
達成指標	学生の授業に対する評価をよりの確に把握するために、授業アンケートに独自の質問項目を追加し、結果の分析とフィードバックを進める。また、修了生アンケートにおける授業内容の満足度について、満足とやや満足を含め 8 割以上を目指す。	

年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	今年度の授業アンケートには、課題の量、教員とのコミュニケーション、講義素材の鮮度などに関する独自の質問を追加した。FD 学生懇談会と修了生アンケートを通じて、授業内容や研究指導についての意見と要望を収集・分析し、教員にフィットバックし、絶えぬ改善を求めている。
	改善策	大学院の授業においては、個々の教員が常に工夫と更新を行っているため、かかる取り組みは継続的に進めていきたい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	昨年度までの学生よりの授業アンケートでの意見を踏まえ、アンケート内容を改善した点は評価できる。
	改善のための提言	大学院の授業において、個々の教員が様々な取り組みを行なっている現状ではあるが、それらを教員間の共有できる仕組みが構築されるとより効果的であると考えます。
評価基準		学生の受け入れ
中期目標		修士・博士課程において学生の質および教員の教育・研究体制等に問題が生じないことを条件として、定員充足率の適正化を図る。
年度目標		MBA セミナー・進学相談会の開催や広報活動の強化などによって、募集人数を増加させる。
達成指標		複数回にわたる MBA セミナーを進学相談会と合わせて開催するとともに、ホームページや SNS での広報活動を強化して、HBS の認知度を高め、魅力をアピールを行うことによって、受験者数の増加を目指す。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	MBA セミナーを2回開催し、ウェブと SNS を通じて入試情報の発信も努めた。2回の MBA セミナーの参加者数はそれぞれ 59 名と 43 名。昼間コースについては、9つの専門領域別の説明文をホームページに新たに掲載し、志願者が選択しやすいように情報提供を行っている。また、専門領域を横断する口述試験を実施することで、志願者の希望する研究分野を見極め、適切な領域への配置と合格者数の増加を図った。その結果、一般入試（修士）の合格者は昨年度比で 55%増となった。
	改善策	MBA セミナーでの参加者アンケート結果から、ホームページや SNS が潜在的な志願者の主たる情報源であることが明らかになった。今後はホームページの刷新やウェブ広告を実施し、さらに効果的な広報活動を行っていきたい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	MBA セミナーの開催やウェブおよび SNS での積極的な情報発信は評価できる。また、昼間コースについてもそれぞれの専門領域ごとに受験生に配慮した情報提供を実施した点も評価できる。
	改善のための提言	それぞれの取り組みの実施がどの程度、志願者増に結びついたかについても情報があると今後の取り組みのために有用であると考えます。また、志願者の数だけでなく、質の向上も目指せばなお良い。さらに、志願者にとっても魅力的なホームページの作成が望まれる。
評価基準		教員・教員組織
中期目標		大学院教育を行えるような優秀な人材の確保に努める。
年度目標		学部教授会と連携して、大学院教育に相応しい教員の確保に努める。
達成指標		学部教員の新規採用人事において、大学院教育に携わる能力を審査時に考慮することを学部教授会に要請する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	組織マネジメント論の教員人事では、大学院教育に熱心な若手研究者の採用に成功した。また、マーケティング論や経営管理論の人事に関しても、大学院教育の重要性を考慮するよう学部教授会に要請している。
	改善策	今後とも大学院教育に相応しい人材の確保に努めたい。

質保証委員会による点検・評価		
所見	学部との協力の下で、大学院教育にふさわしい教員を確保できたことは今後の大学院教育にとって大きな進展であると考えます。	
改善のための提言	大学院教育に大学院生が求めるものを明らかにすることで、より学生ニーズとマッチした採用に結びつく可能性がある。	
評価基準	学生支援	
中期目標	メンター制度、および留学生向けのチューター制度の認知を高めるとともに、必要な時に利用できる体制とする。	
年度目標	メンター制度およびチューター制度の学生への周知徹底を図る。	
達成指標	メンター制度およびチューター制度の利用に関して、学生への認知を高めるとともに、利用の際の方法を周知する。チューターのマッチングにおいて、指導を受ける学生のニーズ等を踏まえて適切な組み合わせを行う。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	新入生ガイダンスやメーリング送信などを通じてメンター制度およびチューター制度を案内し、その利用方法を徹底して周知した。チューターのマッチングでは、指導を受けたい学生のニーズと希望を具体的に聞き、高年次生から最適な人選を行う工夫をした。本報告書作成の時点までメンター制度とチューター制度の利用回数はそれぞれ1回と25回あった。
	改善策	メンター制度の利用が少ないことは、必ずしも悪いこととは言えない。重要なのは、気軽に相談できる環境が整っていることである。今後もこの制度を維持し、さらに利用しやすいように改善していきたい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	メンター制度やチューター制度の利用方法の周知またその徹底は評価できる。
	改善のための提言	メンター制度については相談件数が多い方が良いとはいえないが、少なくとも学生が早い段階で相談しやすい環境づくりを行うことが望ましいと考える。
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	社会人教育だけでなく、研究成果の社会還元を行うとともに教員の社会貢献活動についても可能な範囲で実施する。	
年度目標	教員の社会貢献活動についてのアンケートを継続的に実施する。ホームページ上で経営学研究科の教員による最近の研究動向を発信する。	
達成指標	教員の社会貢献活動に関するアンケートの継続。積極的に情報を発信する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	教員の社会貢献に関するアンケートを実施し、それをホームページ上に公表した。また、大学院の入学希望者に向けて情報発信を行った。
	改善策	今後とも教員による社会貢献活動を促進するとともに、積極的に教員の研究活動、社会貢献活動の発信を継続していく予定である。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	教員の社会貢献に対するアンケート調査の継続されており、評価できる。
改善のための提言	大学院への入学に関心を持っている層にどのような内容また情報発信の方法が望ましいのかを考えることも必要であろう。	
【重点目標】		
アカウンティング・ファイナンスコースの再編および企業家養成コースの募集者減についてその対策に関する議論を行う。また、昼間コースのさらなる強化と拡充に向けて議論を開始する。		
【目標を達成するための施策等】		
MBA セミナーの開催、ホームページや SNS での広報活動の強化などによって、経営学研究科の認知度を高め、魅力をアピールする。コース再編に伴って、教員配置の最適化を目指す検討を始める。		
【年度目標達成状況総括】		
本年度の重点目標の一つである企業家養成コースの募集人数低迷に対する対策は功を奏し、一定の効果が見られました。昼間コースの教育・運営体制を強化し、募集者数の拡大に向けた取り組みは着実に		

進展しています。アカウンティング・ファイナンスコースの統廃合は予定通り円滑に進行しました。また、教員間での院生の研究指導方法の共有に関する取り組みも始まっており、今後はこれをさらに発展させる予定です。加えて、経営学研究科の魅力を一層高めるため、広報活動を強化し続けることが必要です。また、社会のニーズに適応するため、カリキュラムの見直しと教員配置の最適化を含む改革を行うことも重要だと考えます。

IV 2024 年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	修士（夜間）のコース制の再編に関する議論を重ねると共に、修士（昼間）コースの授業内容を充実させる。博士後期課程では国内だけではなく、海外への情報発信のためのサポートを行う。
年度目標	夜間2コース募集停止に伴い、夜間コースと昼間コースの定員やそのバランスについて検討する。
達成指標	夜間3コース、昼間コースの教員配置を踏まえ、各コースの適正な収容定員についてコース代表者会議で検討する。研究科教授会で昼夜定員やその割合について議論を進める。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	修士（夜間）のコース制の再編に関する議論を重ねると共に、修士（昼間）コースの授業内容を充実させる。博士後期課程では国内だけではなく、海外への情報発信のためのサポートを行う。
年度目標	夜間3コースの志願者減について対策を検討する。
達成指標	コース代表者会議にて具体的な対策を議論し、必要な対策を実行に移す。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	修士（夜間）のコース制の再編に関する議論を重ねると共に、修士（昼間）コースの授業内容を充実させる。博士後期課程では国内だけではなく、海外への情報発信のためのサポートを行う。
年度目標	所属教員、院生共に拡大傾向のある昼間コースの教育内容を充実させる方策を検討する。
達成指標	昼間コースの現状の課題の把握につとめる。夜間コースで培ってきたノウハウを共有し、昼間コースの運営体制について一定の方向性を示す。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	昼間修士、夜間社会人、博士後期課程（一般・社会人）のそれぞれのニーズに合致したより体系立った論文指導を行う体制を構築する。また、研究倫理に関する指導をさらに強化する。
年度目標	昼間修士課程での演習の指導体制、指導方法に関して検討を進め、一定の方向性を示す。
達成指標	夜間修士課程で培ってきた指導体制、指導方法のノウハウを共有しつつ、昼夜間の共通点・差異点を明確化し、昼間コースのニーズに応じた指導体制や指導方法について、コース代表者会議、研究科教授会を通じて議論する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	昼間修士、夜間社会人、博士後期課程（一般・社会人）のそれぞれのニーズに合致したより体系立った論文指導を行う体制を構築する。また、研究倫理に関する指導をさらに強化する。
年度目標	昼間修士課程でのリサーチペーパー開始に伴い、リサーチペーパー指導上の課題を明らかにする。
達成指標	昼間コースの演習担当教員間で情報を共有し、現状の課題を抽出する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	修士論文および博士論文の質の向上を目指し学位授与率を向上させるとともに、授業担当者による一層の授業内容の向上に努める。
年度目標	授業内容に関する学生の満足度を向上させる。

達成指標	修了生アンケートにおける授業内容の満足度について、満足とやや満足を含め80%以上を目指す。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	修士・博士課程において学生の質および教員の教育・研究体制等に問題が生じないことを条件として、定員充足率の適正化を図る。
年度目標	広報の強化により、当研究科の魅力や特色を広く的確に潜在志願者に届ける。
達成指標	新入生の情報入手経路や進学理由を明らかにした上で、有効な広報媒体を活用し、必要な情報をタイムリーに発信していく。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	大学院教育を行えるような優秀な人材の確保に努める。
年度目標	学部教授会と連携し、大学院教育を担える人材を採用する。
達成指標	学部人事において、大学院教育を担える人材の採用に結びつける。
評価基準	学生支援
中期目標	メンター制度、および留学生向けのチューター制度の認知を高めるとともに、必要な時に利用できる体制とする。
年度目標	メンター制度やチューター制度の周知や一層の活用をはかる。
達成指標	指導教員決定前の院生に対するメンター教員の支援を強化する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	社会人教育だけでなく、研究成果の社会還元を行うとともに教員の社会貢献活動についても可能な範囲で実施する。
年度目標	各教員の社会貢献活動を共有し、情報として発信していく。
達成指標	教員の社会貢献活動についてのアンケートを引き続き実施し、独自ウェブサイト等を通じて情報を発信する。
<p>【重点目標】 夜間3コースの志願者減を食い止め、志願者増につながる対策を検討すると共に、昼間コースの教育内容を拡充する方策を検討する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 多様な広報媒体を通じて当研究科夜間各コースの魅力や特色を広く的確に潜在志願者に届ける。昼夜コース間での運営体制、指導方法に関する情報共有に努め、夜間コースで培ったノウハウの昼間コースでの有効活用を目指す。昼間コース内での情報共有を促進し、昼間コースの課題発見と対応策の検討につなげる。</p>	